

◎書籍頒布について 会員および、その他ご希望の方に頒布致しますので代金を添えて学会事務局までお申し込み下さい。

- (1) 山田幸男先生追悼号 本学会では昨年8月に故山田幸男先生の追悼号を刊行致しました。この事業は、追悼号刊行実行委員会の手で進められ、その経費はすべて各界各位の寄附金によって充当されました。A5版 i~xxviii, 1~418頁, 山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文および内外の藻類学者より寄稿された論文50編(英文26, 和文24)が掲載されています。価格, 国内5500円, 国外6000円(含送料)。
- (2) 北海道周辺のコンブ類と最近の増・養殖学的研究 昭和49年9月3日札幌で行われた日本植物学会の折, 日本藻類学会主催で「コンブに関する講演会」が開かれましたが, そのときの記録が刊行されたものです。B5版, 65頁, 発表論文4件の研究報告と討論の要旨が掲載されています。価格, 700円(含送料)
- (3) Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific (J.A. Abott & M. Kurogi ed.) 昭和46年8月に札幌で開かれた北大平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録です。B5版, i~xiv, 1~280頁, 16図版, 20編の研究報告を掲載。価格, 国内3000円, 国外4000円(含送料)。

昭和53年度役員

会 長 西沢一俊
総務幹事 山岸高旺
庶務幹事 古谷庫造
会計幹事 岡崎恵視

編集委員会

委員長 小林 弘
委 員 秋山 優・新崎盛敏・今堀宏三・
黒木宗尚・館脇正和・千原光雄・
広瀬弘幸
幹 事 市村輝宜・大島海一

Officers for 1978

President: Kazutosi NISIZAWA
Secretary general: Takaaki YAMAGISHI
Secretary: Kurazo FURUYA
Treasurer: Megumi OKAZAKI

Editorial Board

Hiromu KOBAYASI (Tokyo) Editor in Chief
Masaru AKIYAMA (Shimane) Seibin ARASAKI (Tokyo)
Mitsuo CHIHARA (Tsukuba) Hiroyuki HIROSE (Kobe)
Kozo IMAHORI (Osaka) Munenao KUROGI (Sapporo)
Masakazu TATEWAKI (Murooran)
Secretaries: Terunobu ICHIMURA, Kaiichi OOSHIMA

学会に関する通信は、(〒184) 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学生物学教室内 日本藻類学会幹事宛とし、幹事の個人名は使用しないで下さい。

Manuscripts and other correspondences should be addressed to the Japanese Society of Phycology, c/o Department of Botany, Tokyo Gakugei University, Koganei, Tokyo, 184 Japan

昭和53年3月20日 印刷
昭和53年3月25日 発行

編集兼発行者 小林 弘
〒184 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学生物学教室内

印刷所 学術図書印刷株式会社
東京都練馬区豊玉北 2-13

発行所 日本藻類学会

〒184 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学生物学教室内
東京 振替 6-41999

禁 転 載
不 許 複 製

藻 類

目 次

嵯峨直恒: Fucales ノート 8. エゾイシゲ假根からの葉状体の再生…………… (英文)	1
中沢信午: Fucales ノート 10. ゴシビトリンによるヒバマタ卵の假根形成と細胞分裂の抑制…………… (英文)	5
中原 皓・G. ベペランダー: <i>Halimeda incrassata</i> (ミツデサボテングサ) における炭酸カルシウム結晶の形成, 特に Organic matrix の役割…………… (英文)	9
小林 弘・安藤一男: スタウロナイス属の新種と新組合せについて…………… (英文)	13
楠元 守・園田幸朗・梶野 稔・浜松伸典: 日本各地の水田土壌より分離培養した <i>Gonium pectorale</i> Müller について……………	19
富士川竜郎・中島克子: 比較生化学的にみた褐藻イソブドウとシオミドロの炭水化物……………	27
小河久朗・K. リュマノモン: タイ国のアマノリ類 1. <i>Porphyra vietnamensis</i> TANAKA et P.-H. Ho……………	31
藪 瀬: ウラソソの核分裂……………	35
ノート	
梅崎 勇: エデルスタイン女史の逝去を悼む……………	8
斎藤 譲: ソソ属の本邦新産種 II……………	12
津村孝平: 珪藻用の高屈折率封入剤……………	26
梶村光男: 第 9 回国際海藻学会議印象記……………	39
渡辺 篤: ペンカタラーマン博士の来日……………	40
日本藻類学会第 2 回春期大会講演要旨 (1978・4・1 東京学芸大学)……………	41

評議員会並に編集委員会の議をへて、本号から雑誌の体裁とその英文名を“The Japanese Journal of Phycology”に変更しました。しかし、巻次は継続します。
